



TOYOTA



DERBYSHIRE

豊田・ダービーシャー
子ども会議 2016

Toyota • Derbyshire Children's Meeting
2016



Junior High School students, expressing their views.

中学生のわたしたちが、
いま伝えたいこと。



豊田・ダービーシャー子ども会議2016レポート

テーマ

“国際都市のまちづくり”について

豊田市とダービーシャーとの生徒の間で「多文化共生のために始めること」をテーマに、双方の意見交流をする場。それが、この子ども会議です。4回目となる今回は、両都市から計56名の中学生が参加。諸外国の方々が日本を訪問している現状、また、生徒達が行っている努力やおもてなしという観点から、生徒間の意見交換や決意表明を「国際化」の視点で行いました。



概要

日時・場所 / 2016年10月25日(火) 13:30~15:30
トヨタ紡織株式会社グローバル研修センターにて(豊田市大林町8-54-1)
参加者 / 56名(日本中学生28名、ダービーシャー中学生28名)

会議前にはワークショップが行われました。

日英の生徒がグループになってディスカッションをしました。付箋にアイデアを書き、ホワイトボードに貼って決定していく活動を通し、交流を一層深めました。また、英語で意思疎通を図りながら、グループで会議のテーマについて話し合うことで、提案がより視野の広いものになりました。

ダービーシャーって
どんなところ?

豊田とダービーシャーの交流

トヨタ自動車の現地法人が南ダービーシャー市に設立されたことが縁で、関係3地域と1998年(平成10年)11月16日に姉妹都市提携を結びました。

ダービーシャーは、イングランドのイースト・ミッドランズにある地域です。豊かな自然と歴史ある街並みがイギリスの縮図とも言われる「ダービーシャー県」。産業革命以来の製造業の伝統が受け継がれた「ダービー特別市」、美しい自然に加え、産業経済の更なる発展が期待される「南ダービーシャー市」の3地域で構成されています。

これまでの主な交流

「豊田市から中学生派遣」

16回目を迎えたホームステイ。今年もダービーシャーの人達に温かく迎えられました。美しい自然、生活習慣等興味深い体験をしました。生徒一人一人が英語を使ったコミュニケーションを通して、国際人になるという思いを新たにしました。

「ダービーシャーから中学生受入れ」

今年も28人の生徒と3人の教員の受け入れをしました。着物の着付けをする日本文化の体験や豊田市の自然や施設の見学、学校の授業体験を行いました。活動を通して、交流が深まり、別れ際に涙する姿が見られる等、堅い絆を築くことができました。



ダービーシャー県

ダービー特別市

南ダービーシャー市



ごあいさつ



豊田市長 太田 稔彦

今回、ダービーシャーからの素晴らしいお客様をお迎えし、豊田市の優秀な学生と共に「豊田・ダービーシャー子ども会議2016」を開催できたことを、大変嬉しく思います。

ダービーシャーの生徒さんは、会議に先立って豊田スタジアムを見学されたと聞いています。このスタジアムで、2019年にラグビーワールドカップが開催されます。ラグビーワールドカップ2019™に向けて、ますます多くの外国からのお客様が豊田市を訪れることが期待されています。

今回の会議では、「国際都市に向けてのまちづくり」について、活発な意見交換がなされました。この会議をきっかけに、ダービーシャーと豊田市の友好関係がますます深まることを期待しています。



豊田市議会議員 近藤 光良

今回、「豊田・ダービーシャー子ども会議2016」を豊田市で開催し、お互いの考えや意見を交換することができ、大変うれしく思っています。

豊田市は、ラグビーワールドカップ2019™のホストシティの1つです。おそらく、世界中から多くの人々が豊田市を訪れることでしょう。もちろん、ダービーシャーでも、海外や国内の観光客がピークディストリクト国立公園などに毎年訪れていらっしゃると思います。

今回の会議では、ラグビーワールドカップ2019™も視野に入れた、皆さんの意見交換を通して、両都市が「国際都市」や「国際交流」のあり方について意義深い議論がなされました。この会議をきっかけに、両都市の相互交流と友好がますます深まることを期待しています。

中学生が考える「国際都市」ってどんなまち？

【各グループの意見より】

子ども会議では、まず、9つのグループに分かれてプレゼンテーションを行いました。そこで発表された主な内容をご紹介します。

まちなかの インフラ について

- 「しっかりした輸送網、交通網が必要。」(5班)
- 「看板などに多言語が書かれていること。」(7班)
- 「多言語マップを作る。」(8班)
- 「電車やバスなどの交通網で、外国語の標識、通訳、翻訳が整っていることが街を活性化させる。」(1班)
- 「豊田スタジアムなどの施設へのアクセスが良好。」(1班)



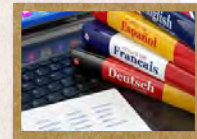
多文化共生 について

- 「世界には様々な外国語、様々な文化があることを理解している人が多く住む都市であること。」(9班)
- 「多言語での表示、標識、安全性、ホスピタリティ、おもてなしの心を外国の方も含めて共存すること。」(1班)
- 「多文化共生センターのような場で意見を交換し合い、自国と異なる文化を体験できる場があるといい。」(4班)
- 「多文化のエスニックグループが共生していること。」(5班)
- 「様々な人々、様々な文化から来た多様性が必要。」(6班)



言語理解 について

- 「英語だけではなく、他の言語や文化についても理解が必要。複数の言語を話す市民の方が増えるといい。」(2班)
- 「訪れた外国の方たちが快適に過ごせることが一番大切。そのために、通訳などを増やす。」(3班)
- 「学校で、英語、ドイツ語、スペイン語を教わる機会が持てること。」(6班)
- 「学校で言葉をもっとたくさん勉強できること。例えば、イギリスでは他の国の言語を学ぶ機会はありません。イギリスの人たちが他言語を学ぶようになれば他国に行った際に言葉をより理解しやすくなり、もっと快適に滞在できると思う。」(8班)



文化理解 について

- 「外国の方が話しかけやすい雰囲気を皆で作るために、外国の人との交流を持つこと。多くのスポーツゲーム、イベントを開催することも大事。」(2班)
- 「宗教に対しても快適さが欲しい。例えば、ムスリムの方にはモスク、その他教会や寺社など、すべての宗教に必要なものがある街でありたい。」(3班)
- 「色々な人種の人々が住み、彼らの生活を楽しめること。」(7班)
- 「世界には様々な文化があることを理解する人が増えること。」(9班)



そのほか こんな意見も ありました。

- 「まちをみんなで掃除することも大切。」
- 「環境に優しく、森や公園など、町中で自然に触れあえる施設があるとよい。」
- 「多くの外国人が観光地や行楽地で滞在を楽しめる環境づくりが大切。」
- 「学生がもっと英語を熱心に勉強することが大事。」
- 「観光で収益を得ること。そのために、みんなで様々な文化を理解する。」



子ども会議がこれからに向けて伝えたいこと。

意見のまとめ

豊田とダービーシャー、両都市の中学生から出た主な意見です。

言語 & 交流

外国の人と交流しようとする姿勢が大切。

- 海外の人と交流できると英語を学びたいという意欲も高まる。
- 外国の製品を買うことが、別の文化を体験することにもなる。
- 文通やソーシャルメディアを活用して、お互いの生活や文化に触れたり、教え合う。



交通 & 環境

交通や治安などの住環境のよさが必要。

- バス等の交通機関をもっと増やすと訪れる人は便利だし喜んでもらえる。
- 地域の人たちのつながりや治安の良さも、国際都市としての第一歩と言えるのでは。



伝統 & 文化

変化のなかでも自国の伝統を大事にする。

- 地域、市、国の伝統文化をもう少し大切にすべきではないか。
- まちの特産や魅力をインターネットなどでもっと世界に発信していくべき。
- 外国の番組がもっとテレビで放送されると、他国の文化を理解するのに役立つ。



先生より



オーエン・クレア先生

皆さんは大変幸運です。地球の半分を1日もかからずに移動し、家に自由に連絡することができ、またワンクリックで世界中の最新ニュースを確認できる時代だからです。しかし、それは必ずしも調和を生み出せるわけではありません。実際の経験を通じて、本当の協力関係、友好関係を築くことができます。若い皆さんが他国の文化、自国の文化を理解し、そして大人になり、次の世代に受け継いでほしい。世界には人種差別などの様々な問題があり、イギリスはEU離脱を決めたなかで、今こうしてかけがえのない友情関係を作り出せることを誇りに思います。

提言



そして、わたしたちがいま伝えたい

「国際都市のまちづくり」とは。



私たちの考える国際都市とは、ダービーシャーと豊田の生徒が目標に向けて共に取り組み、固定概念を変えて生きるといこと。そして、万国共通の、英語であれ他の言語であれ、ピクトグラムなどの絵が標識の中に描かれることで、より良い理解ができるようにすること。そして若い世代から文化や言語を学ぶということ。お祭りはすべての文化の象徴ではありますが、それをこれからも自国で行い、伝えていくということ。そして、さらに交通網がより効率的になるということ。これらの実現に向けて、私たちは力を尽くします。

さらに、具体的に言うと、豊田市では2019年にラグビーのワールドカップが行われ、たくさんの外国人の方が訪れます。そこで必要になってくるのが、英語を話せる日本人のボランティアです。海外派遣という素晴らしい経験をしてきた僕たちが、率先して取り組むべきことだと思います。そして、イギリスの生徒のみんなは、日本で開催されているラグビーワールドカップをただ傍観するだけではなく、日本文化の一端を理解するためにも、イベントや人、まちの雰囲気も含めて興味を持って見るのが大切だと思います。



ダービーシャー生徒代表
ジェニー・バースタード

日本生徒代表
野崎 大地



豊田市教育委員会 教育長 福嶋 兼光

今の社会は科学技術や交通手段の進展によって、情報などの交流がますます盛んです。しかし実際は、歴史や文化、生活習慣等の違いに驚くことも多いでしょう。国や地域の良さを伝えるには、皆さんが何気なく住んでいる自分の国や町の素晴らしさに気づき、学びや体験を深めることが極めて大切です。

地球には46億年という歴史があります。それに比べて、人間の歴史はわずか1000分の1です。そう考えると人間は、歴史や文化、生活習慣等の違いを乗り越えていけるといいます。両都市の絆をさらに深め、お互いに国際都市として、発展していこうとする意識を高め、今後の行動に繋げていくことを願っています。



子ども会議参加メンバー

高橋 力丸
林原 千晴
荻村 はな
下山 愛未
中原穂乃花
足立安祐実
倉知 若葉
篠田 侑佳
本多 陸人
原田 萌衣

佐藤 樹将
徳久 響
澤田 享
杉本 愛
樹神 海斗
猪股さくら
野崎 大地
清水 理沙
武田 真人

堀田安津紗
森近 麗
林 薫音
吉田 理花
近藤 楓夏
原田 朋佳
安藤 聡志
梅村 芽依
寄田 圭将

Abbey Morley
Darcy Clarke
Blake Prosser
Madeline Cook
Owen Dickinson
Myles O'Hanlon
Chelsea Eades
Sophia Bradder
Miya Kelly
Jak Frost

Daniel Waldram
Jeannine Bastard
Olivia Ravenhill
Megan Gillott
Asha Lawson Haynes
Emily Boden
Alexandra Herrett
Charlie Alton
Georgia Rowe

Josie Platts
Kyle Middleton
Layla Cole
Lillie Hyde
Maisy Shea
Megan Harper
Megan McDowell
Nathan Allsop
Phoebe Sanders

【イギリス派遣団】 団 長／今泉 一久
副団長／小山 幾子
渉 外／堀内 敦

【ダービーシャー引率】 リーダー／Claire Owen
Thomas Needham
Ricke Bhardwaj

発行／豊田市 国際まちづくり推進課
Toyota City Internationalization Promotion Division

